

特別講演

「メディアから見たスポーツ少年団 - これからの発展に期待して - 」

宮嶋泰子（テレビ朝日編成制作局アナウンス部（兼）報道情報局 ANN ニュースセンター）

聞き手：佐藤高弘（日本スポーツ少年団広報普及部会員）

本年 1 月、テレビ朝日の「ニュースステーション」において、「スポーツ少年団」をテーマにした放送があったことは記憶に新しい。この番組の反響はとても大きく、メディアの影響力の大きさをあらためて痛感したが、同時に歴史のあるスポーツ少年団が、未だ地域社会で十分理解されず、知名度が低いことも同時に再認識させられた。その理由の一つとして、スポーツ少年団とマスメディアとの関わりの希薄さがあげられる。このことを踏まえ、宮嶋さんにはマスメディアとの上手な付き合い方、地域社会に認められ活発に活動するためのヒントや、日頃、スポーツ番組の制作等においてご自身が感じているスポーツ感について大いに語っていただいた。

【杉山愛選手を取材して】

スポーツとは無縁でしたが、入社 3 年目にテレビ朝日がモスクワオリンピックを独占中継することとなり、これをきっかけにスポーツを担当することとなりました。

現在、テニスの杉山愛選手を取材していますが、テニスの素人である母親が専属コーチをつとめていることに興味を持ち、接しているうちに「ハードな大会スケジュールで心身ともに消耗しきっている選手を支えるのは肉親による深い愛情でしかない」との強い思いに驚き、テニス界のトッププロ（特に女性）では肉親のコーチが当たり前のことだという現状も理解できました。

試合での最終局面では「深い愛情」が結果を左右し、その愛情は人間として素敵な人になってほしいという思いによって育まれたことと、ダブルスパートナーとして楽しさを前面に出していることが杉山愛選手を取材して感じたことでした。

【スポーツに対する考え方】

海外ではシーズン制をとり色々なスポーツを経験させることが当たり前です。スポーツ以外の学業や趣味などとの両立は当然となっています。日本では一つの競技に集中（固執）させ、他競技に転向することなどは許されず、学業や遊びなどはスポーツを行うためには犠牲にするものであるとの考え方が根強くあり、海外と大きな違いがあります。このことは、社会そのものが反映されているように思います。

また、日本のスポーツ界は横（異競技間）の繋がりが少なく、他の競技の選手との連携がとても希薄であることを選手自身も気付いていて、新しい展開を図っていく上で横のよりよい関係を、指導者自身が実践し、選手同士もつくっていくことが大事ではないかなと思います。

【報道機関との連携】

記者を取込むには、会議などにボランティアとして参加してもらうことなどが大事で、地元の記者あるいはOBの方などはそれを待ち望んでいるので、声をかければすぐ乗って

くると思います。スポーツ少年団のアンケート結果を見せてもらいましたが、現状は書類上の関係が多く、人間関係までいっていないと思います。これからの指導者はマネジメント的発想が必要で、「現場はこんなにも素敵なんだ」とアピールすることが大切です。

また、TVは視聴率が重視されており、大概是トップアスリートを取り上げ、結果や功績などその瞬間だけを取り上げ、そこまでに至る過程などはあまり取り上げません。

今回、スポーツ少年団を番組で取り上げた時は瞬間視聴率が17.9%に上がりましたが、暗いニュースが多い中、子どもたちの笑顔に対しニーズがあったということで、子どもに対する危機感をみんなが感じていることが要因と考えられます。興味とニーズがある訳で、このことから「子どものスポーツ」はとても大きな商品価値があることがわかれると思います。これを逆手に取れば、スポーツ少年団はマスコミに多いに売り込めるはずで

【「スポーツ少年団」について】

日本体育協会の生涯スポーツ推進専門委員会の委員として、何回か会議に出席しましたが、そこでスポーツ少年団の話聞き、こんなに歴史があり、こんなに多くの子どもたちが登録している組織があることを知り、素直に驚きました。

今回のビデオでスキーの原田選手がスポーツ少年団の事を語っていますが、これからはもっとトップアスリート（他にもあればそれが良いと思いますが）を広告塔にしていくことなどを検討してみてもいいでしょうか。子どもの頃、誰にチャンスを与えられたのか、ストレートに表現できるような教育も必要だと思います。

「スポーツ少年団」や「育成母集団」のネーミングについては、今後検討すべき課題だと思います。スポーツ少年団に少女を入りづらくしており、団員や知名度の獲得にネックとなっていると思います。育成母集団は自分たちもスポーツを楽しむといった意味合いからは単にサポーターの集団ではないはずですが、実際は...、“マザーズ”のイメージが強く、お父さんが協力し辛い状況があるのではないのでしょうか。

【子どもたちは未来の地球の宝物】

スポーツ少年団の指導者の皆さんが子どもたちの笑顔に直接接し、将来を左右する子どもたちに対し指導をしていることは、とても素晴らしい場に恵まれているのではないのでしょうか。地球（未来）の宝を育てている現場に立たれているわけで、自信を持っていただきたいと思います。また、その幸せを他の人に広めることも必要だと思いますので、ぜひ、がんばっていただきたいと思います。